



トロピカルワイフ

~出張先の南国で人妻エッチ!~

俺はサラリーマンの荒山夏男あらかやまなつお——
仕事の出張で急遽南国の島へと来ている。

連日の激務で疲れ果てた俺は
息抜きに事務所から離れたビーチに
向かうことにした。





「…って何だココ……？
女の人しかいない……っていうか……
みんなキワドイ水着着てるし……！」

「あら……もしかして
荒山さんじゃないですか？」



「えっ!? あ…浅尾さん!」



「奇遇ですね♪
昨年のパーティー以来ですか」



この美人は取引先の社長の奥さんで
浅尾玲奈という。
去年の新プロジェクトを祝したパーティーで
会った時も驚いたけど…本当にキレイだなあ…



「そう…ですね！
またお会いできてうれしいです…
水着とてもお似合いですね」



「あらあら…ふふっ♪
荒山さんってばお上手なんですから」



「いえ本当にキレイすぎて
この目のやり場に困るぐらいで！
って何言ってるんだ俺…申し訳ありません…」



「…そんなに褒めたら…私本気にしちゃいますよ…?」
「…そうだ! ココのお酒とてもおいしいんですよ?」
「よろしければ一緒にいかかですか!」



「いただきます…あつおいしい！
そういえば浅尾さんはどうしてこの島に？
浅尾社長もこちらにいらしてるんですか？」

「主人は日本で仕事です...で私は
お邪魔みたいで南国の島にお払い箱
ってわけです」





マズいこと聞いちゃったな…

「それじゃあおひとりでの島に…
浅尾社長はかなりの敏腕ですし
ご多忙なんでしょうね」

「ここだけの話…あの人が浮気してるんですよ
…10代の娘と…私が近くに
居ては羽を伸ばせないんでしょう」





「こんな美人の奥さん置いて
浮気なんて！信じらんないです！
あ.....」



「……さつきから私みたいなおばさん褒めて…
こんな所見られたら彼女さんが困るんじゃない？」



「い……え……彼女なんていないですし……
それに……浅尾さんの苦しさを想像したらつい大声を……」



「玲奈って呼んで…夏男さん♡」



「えっ……いや社長の奥さんを
そんな軽々しく下の名前なんて……」



「ふうん…呼んでくれたら…
イイことしてあげようと思ったんだけどなあ」



「ゴクツッ…イイ…こと…?」

「実はこのビーチね…私みたいな
夫に不満のある奥さんだけが
集まる特別な場所なんですよ」

「旦那の愚痴を言ったりお酒を飲んだりして
ストレス発散してるの…
いい歳した女がみじめでしょ？」





「みじめだなんて…浮気してるのは
浅尾社長の方なんですし…!」

「夏男さんは優しいんですね…
なんだか…私あなたに…
本気になっちゃうかも…」

「えっ…あつ…!玲奈さん…!」



「んっ……んっ」

「んちゅっ……んちゅっ……んっ……んっ……」



「ちゅっ♡…ふふっ…
玲奈って…呼んでくれましたね♡」



「玲奈さん…これ…マズインじゃ…」



「んっ…♡どうして？
夫とはもうとっくに冷え切っているし…
私だけ浮気はしちゃいけないってこと？」



「そうじゃなくて…俺…玲奈さんのこと
好きだったから…止められないかもしれない」



「じゃあ両想いってことね...
嬉しい♥ねえ夏男さん...
その...はしたない女って
思われるかもしれないけど...
抱いで...くれませんか？」

「玲奈さんに頼まれなくても…俺も
準備万端でいっつか…お願いします…」





「あっ…すごい…本当にカチカチになってる♥
これ…私とのキスで大きくしてくれたってこと…?」

「いや……正直玲奈さんの水着姿見た時から
半勃起しちゃってました……」



「じゃあ…そんなに期待してくれてた
若いおちんぼ…浮気おまんこで
お迎えしちやいますね…♡」

ずっぴん

「くおっ…やばっ…チンポが
玲奈さんのおまんこに包まれるっ…」





「あっ……すごいっ……♡
これっ……夫のより大きい……っ♡♡♡」

「こんな最高のカラダの奥さん
放っておくなんて……俺が玲奈さんの
寂しさを埋めてあげますね……!」



「あん♡あん♡あん♡
ダメっ…夏男さん…私っ♡
数年ぶりのセックスで…えっ♡」

「玲奈さん……ココが弱いですね？
もともと……突っつてあげますね！
うおっ……締まるの……」





「これっ…気持ちよすぎて…
おかしくなっちゃおう…
夏男さん…夏男♥夏男♥」

パ
ン
パ
ン

ズ
ッ

あ
っ
♡

ん
ん
♡

ぬ
ち
ゅ
ん
ん

セ
ン
ン

パ
ン

さ
ち
ゅ



「玲奈さん...いや...玲奈...♡好きだよ...俺の女に...したいっ!」



「なってる♡もう…このおちんぽで
完全に夏男の女にされちゃってるのっ♡」

「あつ玲奈…スケベ過ぎてもう…
射精しちゃうよー中に…イッパツー」





「いびつ...いびつ...いびつ...」

「あん♡あああああつ♡♡♡♡」

びんぱん♡♡



「玲奈…最高だったよ…♡」

「はぁ…はぁ…夏男…ステキ…♡」



こうして：俺と玲奈は
——お互い酒の力を借りてたとはいえ——
一線を越えてしまった：。

そしてそれからというものは…
俺は仕事の合間を縫っては
玲奈のもとに通い…セックスをしまくった。





「じゅわん…じゅわん…」
「あはれ〜♡♡♡♡♡」

「うああっ…玲奈…そんなに
吸ったらすぐ射精しちゃうよ…っ♡」





「んっ…♡ごめんなさい…
だって夏男のおちんちん…
おっきくておいしいんだもの…♡」

「そんなに慌てなくても
俺のチンポは玲奈だけの
モノだよ...だからじっくり味わって」





「んっ…♡ぢゅぞぞぞぞ〜っ！
じゅっぽ！じゅぽっ！
れろっ…ぐぽっぐぽっ！」

っっっっっっっっっっ

んっっっっっっっっ

っっっっっっっっ

んっっっっっっっ

っっっっっっっっ

っっっっっっっ

っっっっっっっ

「ああっ…すごいよ玲奈
性欲丸出しのスケベフェラで
腰抜けちやいそう…!」





「夏男のおちんぼ...
早く欲しい...っ♡
気持ちよくお射精させられたら...
ぢゆるるっ♡おつきいおちんぼ
玲奈のおまんこにくださいっ♡」

っ♡
っ♡
っ♡

っ♡
っ♡

っ♡
っ♡
っ♡

っ♡
っ♡

っ♡
っ♡
っ♡

っ♡
っ♡
っ♡

っ♡
っ♡
っ♡

「もちろんだよ…ぐっ…昨日
初めてセックスしたばかりなのに…
俺たち相性いいのかも…！」





「すずすずっ！ーじゅるるっ♡♡♡
ぐっぐっぐっ！ー」

おっぱい♡

お尻♡

おっぱい♡

お尻♡

おっぱい♡

お尻♡

おっぱい♡

「あーやばいっ精液こみ上げてきたっ
出るよっ玲奈…チンポおねだりの
すけべお口マンコに大量に！」



「うああっ…すごっつ…
射精した直後の変態バキューム…!」

「ぢゅるるっ♡♡♡
…んんっ…ね…夏男…
早く…早くう♡♡♡」



「わかったよ玲奈…
気持ちいいフェラしてくれた
ご褒美あげないとね？」

「んっ…♡お願いっ…夏男…♡」



「それじゃあ…挿れちゃうよ？」

「ね…ねえ夏男…?
できれば…その…
昨日より激しく…のしりながら
セックス…してほしい…♡」



「玲奈…もしかしてMなの？」

「はいっ…♡
だから…この淫乱人妻おまんこ…
調教して…♡」



「わかった…それじゃまずは
呼び方からだな…ご主人様って呼びなさい」

「は…はい…ご主人様…♡」



玲奈の『ご主人様』というワードを聞いて
背筋がゾクリとなるのを感じた。

あの憧れの女性…
取引先の社長の妻が…
手の届かなかったはずの
高嶺の花が…



いまや俺の前で股を開き
若いチンコを欲するメスと化している…

この事実には俺は…人生で一番の
興奮を覚えていた。



「まったく…旦那を放って
いやらしいデカ尻を
若い男に向けておねだりとは…
玲奈はとんでもない変態マゾ豚だな」





「うう…はいっ♡
私は…玲奈は…ご主人様の
お情けが欲しくてお尻フリフリして
おねだりする卑しい豚奴隷です…♡♡♡」

「じゃあそのかわいい雌豚ちゃんに
ご奉仕フェラチオの御礼してあげないとね」

ずびっ

「ああっ♡♡♡
夏男のおちんちん…きたあっ♡♡♡」





「気持ちいい…っ♡
これっ奥までくるうっ♡♡♡♡」

ピン
ピン
ピン

さ
ち
ぬ
ち

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

あ
ん♡



「旦那のおちんぽとは
比べ物にならないのおっ♡♡♡」



「まったく…浅尾社長も
浮気するなんて最低だと思ってたけど
…間男のちんぽでヨがる玲奈も大概だね」

ピン
ピン
ピン

ガ
チ
ぬ
ち

ガ
ッ
ガ
ン

ゴ
ク
ウ

あ
ん

「オラっ！俺だけのちんぽ奴隷になれ
玲奈！一生俺のおまんこ奴隷だ！」



オ
シ
ン

お
ち
ん
ぽ
ぬ
ち
ん

ズ
ッ
ズ
ッ

ズ
ッ

あ
ん



「この青空の下
獣みたいにバックで
犯されて感じる！玲奈！」

ジュンジュン

ガッ
ぬちゅん

ガッ
ガッ

ゴ
ゴ

あ
ん♡



「あああん♡♡♡だめえっ♡♡♡
ピーチで浮気相手のおちんぽで
アクメしちゃうのおおおっ♡♡♡」

ピン
ピン
ピン

ガ
ガ
ガ
ぬ
ち
ん

あ
ん

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ



「イクイクっっ！
射精するぞ玲奈！
おまんこ中出しで
奴隷妊娠しろおとおっ！」

イクイク

おまんこ
ぬちゅ

イクイク

グチュ

あん♡



ズキズキ

ズキ

おちぬち

あん

ピン

「きてっ♥♥♥中出しキめてえっ♥♥♥玲奈の雌豚おまんこにお仕置きしてくださいっ♥♥♥」



ひゅん

「ああああっ♡♡♡♡♡
くるぅううううううううう」



「は...はら...♡♡♡♡」

「はあ...はあ...さあ玲奈
...今度は俺たちのセックス
お友達の奥さんたちに
見てもらおうよ...」

一時間後：俺たちは
玲奈の愚痴仲間：もとい
友達を呼びセックスを
見せつけることにした—。



当然欲求不満な人妻たちだ：
断ることもなく興味津々の表情で
セックス鑑賞会を承諾した。





「うわぁ…玲奈さんのおまんこに夏男くんのおちんちん…ずっぽり入っちゃってるわぁ…♡」



「すごい……♡私の旦那の数倍の
大きさんじゃない……？
玲奈さん羨ましいなあ……♡♡♡」



「き…今日は…んんっ♡
私たちのセックスを見に来てくださり
ありがとうございます…♡♡♡」



「……こんにちは……
玲奈の恋人の夏男です……」



うう…やばい…言い出したのは俺だけど…

他人にセックスを見られるのって
めっちゃくちゃ恥ずかしいッ…!



「玲奈さんいいわね〜そんなイケメンを
彼氏にできるなんて…私も味見したいくらい…♡♡」

「も…もう！夏男のおちんぽは私だけのものなんですからね！今回は夏男が言うから仕方なく…んっ…♡」



「ま……まあまあ……
今回は僕のがままで
集まってもらった代わりに……
なるべく皆さんに満足してもらえら
ようなセックスをしますね……！」

「ふふっ♡
期待してるわよぉ♡♡」





「それじゃあ動くよ玲奈…
ふんっ！」

「あっ♡♡♡子宮に届いちゃうよ♡」



「うおっ...すごいらよ玲奈...さっきの
バックの時よりもヌレヌレなんじゃない?」

ズ
チ
ユ

ズ
ン
ン...

あ
っ
っ
っ

〇
〇
〇
〇
〇

〇
〇
〇
〇
〇

〇
〇
〇
〇
〇

す
ち
ゅ
す
ち
ゅ



「わあっ♡♡♡すっごい腰振りねえ♡♡♡」

くちゅ
おっ♡

ズキキ

おっ♡

あっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

「若いっていいわねえ〜…♡♡
夏男くん♪
後でお姉さんとも遊びましょうよ♡」

グ
キ
ュ

キ
ン
ン…

あ
っ
♡

〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇

〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇

〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇

〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇





「も…もうーだからダメだって言ってるでしよー!」
「あぁっ♡♡♡しゅごっ♡おちんぼ刺さるっ♡♡♡」

ズ
キ
キ

ズ
キ
キ

あ
っ
♡

〇
〇
〇
〇
〇

〇
〇
〇
〇
〇

〇
〇
〇
〇
〇

く
ち
ゅ

く
ち
ゅ



「玲奈…おまんこ絡みついて気持ちいいよ」

びしょ



「夏男…私…見られてるせいかな…んんっ…
もう…イっちゃいそう…♡♡♡」

ズキ
ズキ

ズキ
ズキ…

あっ♡

ジュ
ジュ
ジュ

ジュ
ジュ

ジュ
ジュ

ジュ
ジュ
ジュ





「あゝ...もうふたりともいっっちゃらなうよー!」

「見たい見たいっ♡
夏男くんと玲奈さんのアクメ
私達に見せてえ〜♡♡♡」

ガ
キ
ュ

キ
ン
...

あ
っ
♡

〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇

〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇

〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇

〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇
〇



「イクっー玲奈受け止めてくれえええっ！」

「あっ♡♡♡♡イっくううううううううううう」

あまのこ
びんご
びんご
んっ!!



「はあ…はあ…皆さん…今日は
お集まりいただき…ありがとうございますあ…♡」

「よかったら…また見に来てくださいね…♡♡」





その晩…僕は玲奈の暮らす別荘に
お邪魔することにした…。

言うまでもなく欲求不満な俺たちは
常にセックスしていたので
服も着ずにやりまくっていたのだが…。

「あつ……亭主から電話だわ……」



「えっ……浅尾社長から!?
浮気してるらしいからてっきり
電話なんて来ないかと……」

「いつもなら私が日本に帰るまで
何の音沙汰も無いのに...
ごめんなさいね夏男...少し待っててね?」



「は…はい…玲奈です」



「あ…もしもし玲奈？
来月結婚記念日だろ…
何か欲しいものとか無いかな？」


「…記念日なんて…
覚えていたんですけどね…
欲しいものなんて
ありませんよ…いまさら」



「れ…玲奈…怒ってるのかい？
そりゃあ仕事で構ってあげられない
のは悪かったが……機嫌直してくれよ」

この時俺は、浅尾社長の都合のよさに腹が立つていた。





自分が若い娘と浮気してる間に……
玲奈がどんな思いで二人で
お払い箱にされたのか？
考えもしなかつたのか？



そう思うと同時に
勝手に玲奈の膣内に
ペニスを挿入していた。
『玲奈は俺の女だ』と
証明したのがために。



「あーっ…♡♡♡♡」

ずっずっずっ

「玲奈!? どうした?!
何かあったのか!?!」



「な…なんでもない…わ…♡♡♡
いまちようど料理してて…んっ…♡♡♡
そう…やけど…火傷しちゃったの…っ♡♡♡」

あゅっ

ぬちゅ

んっ♡

んゅ

ズキ
ズキ
ズキ

あゅっ♡

んっ♡

パッパッ

ちゅ



「玲奈…好きだ…浅尾なんか忘れて…俺と結婚してくれ…っ!」

「っ…っ…っ」

あやっ

んゅ

ぬちゅ

ズキ
ズキ
ズキ

ちゅ

んん

あっ

んん

パッ
パッ
パッ

気付けば玲奈に夢中になっていた俺は
浅尾の電話に焚き付けられて
本心を口にしてしまった！





玲奈は俺の女だ…
浮気したのは浅尾…お前の方だ!
玲奈は俺が幸せにするんだ…!!



「いまね…お客さんが…
すごく嬉しい…んんっ♡♡♡
とっても素敵な…約束してくれたの…♡♡」

あーっ♡

ぬちゅ

んん♡

んゅ♡

あ♡

ん♡

ズキキキ

パキキ

ちゅ♡



「んっ?...ああ...友人か...
パーティーでは飲み過ぎないようにな」



「あつ…ダメっ…行くっ♡♡♡」

ぬちゅ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ



「え？！行っつて…
ああパーティー会場か…気を付けて
行ってきなさい…
私もそろそろ…取引先と
用事があるのでね」

んんん♡

ぬちゅ

あーい

ん♡♡
あ♡♡

んゅ

ズンズン

パッパ

ちゅ



「う…うん…夏男…♡♡♡
ちゃんと…返事するから…♡♡♡
いまは…中出ししてえつ♡♡♡」

んん♡

ぬちゅ

あや


あ♡

んゅ

ズキ
ズキ
ズキ

ちゅ

パ
パ
パ



翌朝：昨日の件もあってか：
俺たちは誰もいないビーチで
狂ったようにハメていた

もうセックスし始めてから3時間経つが…
一向に性欲が収まる気配が無かった。





「らめええっ♡♡♡イクイクイクイクっ♡♡♡」

あっ♡♡
せんっ

あん♡

すっ♡

あっ♡♡♡
せんっ♡♡♡
あん♡♡♡
すっ♡♡♡



「玲奈…もう40回以上イってるね…
玲奈が俺の奥さんになったら…
毎日ハメハメしちゃうよ…!」



「ふふ…それは困ったね
じゃあ結婚するしかないんじゃない？」



恐らくわかりきった回答を予想しながら…
焦らすようにねっとり臆内をかき回す。



かく言う俺自身も玲奈じゃないと
イケない体になってしまったしー。



「なるっ...なりますっ♡♡♡ 私...夏男のお嫁さんになりますうっ♡♡♡」

あぁ?

ばん

あん♡

すい♡

せつ

あや
おん
あや
おん
あや
おん
あや
おん



「玲奈…嬉しいよ…
じゃあ確実に妊娠させるために
ハメハメ続けるね？」



「すごいっ…夏男の…
私の新しい旦那様のおちんちん良過ぎて
おかしくなっちゃうの♡♡♡」



「はあっ！はあっ！
好きだよ玲奈！
腰が止まらない！」



「おちんぽがあっ♡おまんこの中
ゴツゴツ当たってえっ♡♡♡」



「いくの…っ!
もう数えられないくらい
イっちゃってるうっらい
♡♡♡」



「こんなにいやらしい玲奈にはお仕置きザーメン注入するぞ!」



「いつくぞおおおっ!」

「うああっ♡♡♡あああああっ♡♡♡」

ひゅん



朝からハメまくった俺たちは
お互いの気持ちを確認したい。
心から満足していた。



そして自分の気持ちに
より正直になった玲奈の痴態も
それに比例して強いものになっ
ていった…。



「ふふっ...」ねえ夏男...
この間は私の友達のこと...
いやらしい目で見てたわよね?」

あん♡

はあはあ

ぬちゃーん

きゅん

きゅん

ぬちゃーん

きゅん

きゅん...きゅん...



「くおっ……玲奈のパイズリすぎすぎるよ……
あ……あれはさ……向こうが挑発してくるからつい」

くおっ……

あん♡

ぬぱーん
ぬちゅん

がちゃ

ぱーん

ぐん

ぬちゅん

はあ
はあ



きんきん...

ぬちゅーん

はあはあ

あん♡

ぬちゅーん

はあはあ

はあはあ

「ふーん?誘惑されたからって新しい奥さんにおちんぼ挿れながらよそ見しちゃうんだ夏男は?」



きんぽ...

あん♡

はあはあ

ぬちゅ

ぽん

ぽん

ぬちゅ

ぽん

「う...ごめん...いやらしい目で
見えました...でも!
俺が愛してるのは玲奈だけだよ!」



「本当かなあ？うー？
じゃあ...どれくらい愛を
私のおっぱいに注いでくれるか
確かめてみましょう」

あーん♡

はっ

はあはあ

ぬちゅ

はっ

はっ

ぬちゅ

はっ

はっ



「うあっ...締め付けが強く...っ!
玲奈...もしかして実はS?」



「こう見えても夏男よりお姉さんなんだよ？
おちんちんおっぱいで
よしよしして…悪いこと考える
ウミを出しちゃいましょうね〜♡♡」

あ〜ん♡

はあはあ

ぬちゅ

んん

んん

ぬちゅ

んん

んん

「あぐっ…気持ちいい！」



「あっ♡♡おちんちんおっぱいの中で
ビクッてしたね!♡♡夏男くんは
お姉ちゃんのおっぱいちゅきですかあ〜?」

きゅん

あん♡

ぬちゅ
ぱん

ん

ぱん

ん

ぬちゅ

ん

はあ
はあ



きんぽ...

「うう...玲奈...玲奈おねえちゃん...♡」

あん♡

ぬぱーん
ぬちゅん

ん

ぱーん

ん

ぬちゅん

はあ
はあ



普段とは違う玲奈のSっぽいパイズリに
思わず甘えてしまう俺だった...

きゅん...

あん♡

ぬちゅ
ぱん

はあ

ぱん

はあ

ぬちゅ

はあ
はあ



きゅんきゅん...

あ〜ん♡

「ふふっ♡私夏男のこと
Sっぽいかなあって思ってたけど...
隠れM男くんなの?♡♡♡」

ぬちゅん
ぱんぱん

がたがた

ぱんぱん

はあはあ
ぬちゅん
がたがた



「...そんな暴力的なおっぱいをパンクされたら誰だって...」

あーん♡

あーん♡

ぬちゅ
ぱんぱん

はあはあ

ぱんぱん

はあはあ
ぬちゅ
ぱんぱん



きゅん...

あん♡

はぁ
はぁ

ぬちゅ

ぱん

ぱん

ぬちゅ

ぱん

「はいいい言い訳禁止!
このままおっぱいはいぬぶぬぶして
だらしなくイっつちやおうね♡」



「アイっちゃえ...♡夏男♡
玲奈お姉ちゃんのおっぱいで♡
いっぱい射精しなさい♡♡♡」

くっくっく...

あん♡

ぬぱーん
ぬちゅ

がわ

ぱん

ぐん

ぬちゅ

ぐん

はあはあ



ぐわんぐわん...

あん♡

はあはあ

ぬちゅ

ぐわん

ぱん

ぬちゅ

ぐわん

「あつ...あつ...玲奈おねえちゃん...!
イっちゃう...! イくよおおおおっ!」



「いっせーしょー!」

びゅん
びゅん

「あつは…♡♡♡すごっ…♡♡♡
びちびちって…夏男のDMザーメン
爆乳の中で暴れてるわよ…♡♡♡」



「さ…それじゃあ今度はあ…
お姉ちゃんさえっちしようか♡♡♡」

「玲奈…もしかして…
お姉ちゃんプレイに
ハマった…?」



「夏男…ほら…
早くぶち込んで…♡♡♡」

「まったく…さつきとは
打って変わって…
言われなくても
ぶち込んでやるよッ!」



「あっ…♡♡♡
すごっ…パイズリで
ガチガチになった
おちんぼ…来ちゃったあ♡♡」

「さっきは玲奈に
いじめられちゃったからね…
今度は俺が玲奈を
ヨガらせてあげるよ」





「玲奈はお腹の近く突かれるの
大好きだもんね…やりまくって
わかつちやったよ…」



「玲奈のこともっと
知りたい…このおまんこも
大きなおっぱいも…
むっちりしたお尻も俺のモノだ！」



「全部夏男のカラダ…
だよお♡♡♡
だからもっ♡♡♡もっ♡
突きまくってえっ♡♡♡」

今の玲奈の姿見たら浅尾社長
どう思うかなあ…という言葉は
飲みこんで腰を振ることに集中する。





「気持ちいいっ♡
夏男のちんぽ中毒に
なっちゃってるう♡♡♡」



「これから毎日味わうんだから
気をやらないようにね?」

あ〜ん♡

ん♡ん♡

ズクッ

お〜ん♡

パッパッ

バクバク

グググ
チュッ

ジュッ



「夏男…夏男っ♡
んんっ♡♡♡そこっ♡
おちんぽゴリゴリして
イっちやってるっ…♡♡♡」



「でもお尻の話をしたら
きゅっとおまんこ
締まったよ?
玲奈…やっぱり変態だね」



「そう…ですう…♡♡♡
私は…玲奈はあっ♡
年下の新しい旦那様に…
お尻の穴見られて
興奮する変態ですっ♡♡♡」



「夏男っ……もう私……
すずこのきちゃう……♡♡♡」

ジュジュ

んんん♡

あん♡

あうあう♡

パチパチ♡

ジュジュ

パチパチ♡

あうあう♡



「玲奈…俺も…!!」
「イクっ!また中出しで」
「子種仕込んであげるよ!」



くわんわん...
あゝ♡

「イクううううっ♡♡♡♡」

「射精るうううっ!!」


ほむるん♡♡

びゅん


ん!!

こうして…南国での生活を楽しんだ俺たちは
お互いの行動を進めることにした。





玲奈はこれまでの浅尾の浮気現場を
おさえた写真を始め、様々な証拠をもとに
弁護士に相談——浅尾は否定もできず
離婚にしぶしぶ同意するほかなかった。



俺の方は浅尾からの
慰謝料を頭金に加えて
玲奈との愛の巣：一戸建てを
構えることにした。

結婚とマイホームなんて
俺には縁のないものだと思っ
てたけど…
ある意味浅尾には感謝して
もしきれない。



数か月後：新居寝室

「玲奈…挿れちゃうよ」





「ちゅぶっ…
ちゅうっ…♡♡♡
うん…夏男の♡♡♡
おちんぼ様の♡♡♡
ちようだい♡♡♡」

ずいっ



「うあっ…今日の玲奈のおまんこ
一段とねっとり絡みつくよ」

ぱんぱん
ぱんぱん
ぱんぱん

びしょ
びしょ
びしょ

あやう
あやう
あやう

あやう
あやう
あやう

びしょ
びしょ
びしょ



「玲奈はもう俺の奥さん
なんだ…好きなきに
好きなのでここでセックス
しようね♥」

「ああ…お望み通り
何発でも特濃子種
玲奈のおまんこに
ぎつとり仕込んでやるよ」





「いやあつ...♡♡それは...
夏男がじゅぼじゅぼ
おまんこかき回すからあつ♡」



「ちゅるるっ♡♡♡♡
んっ…♡♡♡♡出して…射精して♡
いつでも…好きなだけえっ♡♡」

ぱんぱん
んっ♡♡♡♡

んっ♡♡♡♡

んっ♡♡♡♡

あー
ちゅ♡♡♡♡

んっ♡♡♡♡



「くっ...いくよっ...スケベおまんこに
たっぷり俺のうどんザーメン
中出しして着床させるぞおっ...!」

ぱんぱん
かたかた

あやっ
さっ
はっ
ん...

はっ



「んんんん~~~~っ♡♡♡♡
らひてらひてえっ♡♡♡♡
いっばいお情けザーメン
玲奈の奴隷おまんこに
射精してえ♡♡♡♡」

ぱんぱん
びしょ
あちゃ
んんんん
んんんん

あちゃ
びしょ
あちゃ
あちゃ



「玲奈の変態マンコにイぐううううっ！」

ひゅん

「んぐっ!?
ふあああああっ♡♡
イぐうううううっ♡♡」


んんんん



「はあ…はあ…玲奈…
これからはずっと…
一緒に毎日セックスしてこうな…」



「は...はいら...♡♡♡
毎日夏男に...お精子
恵んでもらいますう...♡♡」



その後…玲奈から
人生で最もうれしい
報告を受けることになるのだが…

もう少し…今は
『ふたりだけ』で楽しんでいたい



荒山玲奈になった彼女を
もう少し独占したって
バチは当たらないだろう…





END